

## 報 告 Report

## ものづくり大学同窓会 平成 25 年度 地域貢献活動報告

原稿受付 2014 年 3 月 26 日

ものづくり大学紀要 第 5 号 (2014) 69~72

中元良成\*1, 加藤大樹\*2, 上原苑子\*3, 大塚秀三\*4, 川辺憲一\*5

\*1 ものづくり大学同窓会 書記(学務部 教務・情報課 交流係)

\*2 ものづくり大学同窓会 理事(学務部 総務課 施設係)

\*3 ものづくり大学同窓会 会長(学務部 教務・情報課 教務係主任)

\*4 ものづくり大学同窓会 監査(技能工芸学部 建設学科 准教授)

\*5 ものづくり大学 学務部 学生課 課長

## 1. はじめに

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災を受け、ものづくり大学同窓会（会長：上原苑子・建設 2 期）では、昨年に引き続き有志を募り、災害ボランティア活動（以下、「ボランティア活動」とする）を行った。また、近隣の幼児・児童を主対象にものづくりの楽しさを啓発する事を目的とし、既に社会で活躍している本学の卒業生の有する技能・技術を活かした地域貢献活動として、体験型ものづくり教室（以下、「ものづくり体験教室」とする）を、引き続き実施した。

ここでは、2013 年度にもものづくり大学同窓会が実施した「ボランティア活動」ならびに「ものづくり体験教室」について報告する。

## 2. 活動概要

「ボランティア活動」は、年間を通して 3 回（2013 年 2 月末日現在）行い、活動場所は岩手県陸前高田市とした。「ものづくり体験教室」の開催は、行田市よりものづくり大学が依頼を受けて実施している「おもしろものづくり教室」、行田市商工会議所の主催する「商工祭・時代祭り」、JCM 埼玉（連合埼玉金属部門連絡会）の主催する「親子ものづくり教室」など、大学周辺において年間を通じて複数回実施した。メニューは、毎年好評を博している道具箱型筆箱およびガラスブラスト、モルタルを使った研ぎ出しキーホルダー、オリジナルペンたてである。使用する材料の一部については、建設学科のご好意により実習の廃材をご提供頂いている。また、講師は昨年度同様ものづくり大学同窓会役員ならびに卒業生有志を主としており、ボランティアによるものである。今後、同教室を更に活性化するため、Teaching Staff として卒業生を広く募っているところである。

## 3. 活動内容

### 3.1 陸前高田ボランティア

#### 3.1.1 概要

2011 年度 3 月 11 日発生した東日本大震災を受け、今年度も引き続き岩手県陸前高田市を中

心に復興・生活支援活動を行った。

この活動は今年度で3年目となる。活動内容に関しては、これまでと同様、遺品搜索活動に加え、食堂の屋外屋根の設置、駐車場の整備など、現地の依頼に重点を置き活動を行った。

### 3.1.2 実績報告

ボランティア活動は、4月・5月・8月・12月にて行い、21日間で延べ144名での活動を行った。(写真1)

現地で生活する方々から寄せられる依頼内容が、生活に密着したものへ変化してきた昨年度と比べ、今年度は食堂の屋外屋根の設置や大型バス用の駐車場整備といった復興に向けた前向きな依頼が多く寄せられた。また、高齢者宅の庭の整備や地元の神社の整備・清掃など、地域住民の声を直接聞いて活動を行うといった、地域に密着した活動を多く行った。

活動等の費用については、同窓生有志のみで捻出し、技術指導に関しては建設学科元非常勤講師の村上幸一氏にご協力頂くことができた。また、活動を行うにあたり、現地との調整などについては、地元住民からも多くのご協力を頂いた。

その他、ボランティア活動の主な内容は、下記の通りである(表1)。

なお、本活動については2013年5月5日付の東海新報(写真2)にて紹介されている。

表1 平成25年度ボランティア活動一覧

No.	活動期間	参加延べ人数	活動内容
1	4月27日(土)~5月5日(日)	78名	(NPO) P@ct より依頼: 倉庫製作, 掲示板修理, 汚泥掻き出し, 遺品搜索 村上建設学科非常勤講師より依頼: 仮設住宅用ベランダ部材制作, 諏訪神社整備
2	8月10日(土)~8月18日(日)	57名	村上建設学科非常勤講師より依頼: 飲食店屋外屋根設置工事 (NPO) P@ct より依頼: 大型バス用駐車場整備, 高齢者宅庭整備補助
3	12月21日(土)~12月23日(月)	9名	住田町社会福祉協議会より依頼: 屋外階段移設工事



写真1 活動状況



写真2 東海新報 (2013/5/5)

## 3.2 小学生対象体験教室

### 3.2.1 モルタルを使った研ぎ出しキーホルダー

#### (1) 概要

日本家屋の壁や床・土塀等，仕上作業で欠かせない職種である「左官」に馴染みのある子どもが少ないのではないかと，という観点から地域の子どもに対し左官材や仕上げ材を使用したものづくり体験教室を開催した（写真3）。

#### (2) 実績報告

昨年度と同様に，5月にさきたま古墳で開催された「さきたま火祭り」にて開催し，70組の参加があった。

### 3.2.2 道具箱型筆箱

#### (1) 概要

日本文化の一つである職人の道具箱の原理を現代の子供たちに伝えるため，本来の縮尺を変更し，筆箱として使用できるようにした（写真4）。

#### (2) 実績報告

7月に，昨年と同様に，ものづくり大学が行田市からの依頼で開催している「おもしろものづくり教室」にて，「道具箱型筆箱をつくろう」を開催し，9組の応募があった。

### 3.2.3 グラスブラスト

#### (1) 概要

ブラストは，建築・製造の両分野において使用されている技術であるが，加工現場を目にする機会の少ない技術である。そういった技術に触れることで，地域の子どもに対し，昨年と異なる角度からものづくりへの好奇心にアプローチできるのではという思いからこの体験教室を開催した（写真5）。

#### (2) 実績報告

7月に，3.2.2 (2) と同様の依頼，そのほか，11月にJCM 埼玉からの依頼により，「グラスブラストでコップに絵を描こう」を開催し，それぞれ8組と24組の応募があった。

### 3.2.4 オリジナルペンたて

#### (1) 概要

このペンたては，1枚の底板と同一の形状をした部材のみで作られるもので，組み立て方法は対象者である幼児・児童のことを考慮し，凹みを入れた部材同士を嵌め込むだけの仕様とした。部材が単純であり自由度が高く，参加者の好奇心や自由な発想を十分に発揮出来るのではないかとこの思いから，この体験教室を開催した（写真6）。

#### (2) 実績報告

11に行田商工会議所からの依頼により，忍城時代祭にて「オリジナルペンたてを作ろう」を開催し，45組の参加があった。



写真3 火祭り



写真4 道具型筆箱



写真5 グラスブラスト



写真6 オリジナルペン立て

#### 4. まとめ

本年度は、昨年度に引き続きボランティア活動を精力的に行ったが、被災地の状況がこれまでとは大きく変わっていた。2013年1月より発足し災害ボランティアセンターと同様の役割を果たすNPO法人P@ct（パクト）からの依頼のほか、地元住民等からの依頼が多く、徐々にではあるが、確実に復興へと進んでいる実感があった。今後も様々な変化が起こることは予想されるが、ものづくり大学の卒業生として、復興へ向かう被災地のために尽力していく所存である。

また、体験教室についても、継続的に開催し、製作キットの開発・販売に向けた活動を行っていく予定である（表2）。

表2 参加者一覧

体験教室項目	参加者数	実施時期
モルタルを使った 研ぎ出しキーホルダー	70組	5月（さきたま火祭り）
道具箱型筆箱	9組	7月（おもしろものづくり教室）
グラスブラスト	8組 24組	7月（おもしろものづくり教室） 11月（親子ものづくり教室）
ペン立て	45組	11月（商工祭・時代祭り）

#### 謝 辞

ものづくり大学同窓会の活動に際し、学校法人ものづくり大学ならびにご支援頂いた教職員の皆様、実習用機器および廃材提供では製造学科・建設学科より多大なるご支援を頂いています。また、本活動には同窓会役員をはじめ、多くの卒業生・在校生有志のご助力を得ています。ここに、紙面を借りて関係各位に深謝いたします。

#### 文 献

- 1) 加藤大樹・上原苑子・大塚秀三・宮本伸子：ものづくり大学同窓会 平成 22 年度 地域貢献活動報告, ものづくり大学紀要, pp.104-107,2011.6
- 2) 加藤大樹・上原苑子・大塚秀三・宮本伸子：ものづくり大学同窓会 平成 23 年度 地域貢献活動報告, ものづくり大学紀要, pp.119-122,2012.6
- 3) 加藤大樹・上原苑子・大塚秀三・川辺憲一：ものづくり大学同窓会 平成 24 年度 地域貢献活動報告, ものづくり大学紀要, pp.113-116,2013.6